

世界の食虫植物展での塗り絵による体験型学習について

上野明楽・竹本香織

はじめに

世界の食虫植物展は広島市植物公園で毎年夏に子供から大人まで集まる一大イベントである。また、食虫植物は、その独特の風貌や動きのあることから、子供が最初に興味を示す植物になることが多い。

この度、会場である展示温室の廊下に、来園者、特に子供をターゲットに食虫植物の観察も兼ねてぬりえを用意したところ、予想を超える数の台紙が消費された。その様子を報告する。

実施時期および結果

世界の食虫植物展の開催期間である令和7年7月19日（土）から8月17日（日）まで、展示温室の廊下にぬりえを用意した。塗った絵は各自廊下の壁に貼り付けるか、持ち帰ってもらうこととした。ぬりえの種類はウツボカズラと今回の展示の目玉となったヘリアンフォラの2種類で、それぞれ100枚ずつ用意した。7月29日の段階で西側の壁面がぬりえで埋め尽くされたため、東側の壁面も貼るようにした。展示の最終日である8月17日には貼り付ける場所が無くなったため各自で持ち帰ってもらうことにした。壁に貼り付けたぬりえは合計で446枚あった。

考察

ハエトリグサやウツボカズラなどが知られる食虫植物は、動きを伴う捕虫行動や、造形の面白さが人気の植物である。当園では、多くの食虫植物が夏季に生育が旺盛となり、美しい葉を展開するため、夏休みに合わせて7月末から8月末までの期間展示を行う。展示をしていく中で、なぜ子供に人気なのかを考察すると、大きく分けて3つの理由が考えられる。

- 1 目で見てわかる速さの動きがあること。
- 2 関連したキャラクターが多いこと。
- 3 小さい子供には花を愛でる感性がまだ育っていないと思われること。

3で述べた点はあくまでも筆者自身の幼少期の

体験に基づくものである。

以上の3点から、食虫植物は様々な植物の不思議を知ることができる植物植物公園にまた来園してくれる一つのきっかけになるものと考えた。

なお、令和7（2025）年度は、食虫植物展のウツボカズラ、ヘリアンフォラの他に、アサガオ（変化朝顔展、秋の薬用植物とハーブ展）、フェロカクタス、万象（サボテンと多肉植物展）のぬり絵を作成し、ぬり絵体験あるいは用紙の配布を行い、非常に好評だった。このような体験型イベントは植物に親しむきっかけとなるので、今後も続けていきたい。



写真1 8月17日 展示温室廊下 西側



写真2 展示温室廊下 東側